

昭 19	19	年	水 五 航 空 情 報 連 隊  (集才一七三二〇部隊)
6	4	月	
7	30	日	
<p>一、編成の状況</p> <p>軍令陸甲才三四号により臨時編成下令 漢口に於て才一次編成完結 編成内容左の如し</p> <p>本部</p> <p>才一中隊 (情報中隊)</p> <p>才三中隊 (警戒中隊)</p> <p>材料廠</p> <p>軍令陸甲才 号に依り広東に於て才二次編成を完結し左の二ヶ中隊を増設す。</p> <p>才二中隊 (情報中隊)</p> <p>才四中隊 (警戒中隊)</p>			略
			歴
			摘要

0639

20	20	20	19	19
4	3	3	10	9
15	15	1	30	7
<p>軍令陸甲第九三号（昭一九、七、二五）に依り廣東に於て第三次編成を完結し左の一ヶ中隊を増設す。</p> <p>第五中隊（警戒中隊）</p> <p>展開中なりし第四中隊の象山、温州、福州各警戒小隊を軍令により第六航空情報連隊長の指揮下に入らしめらる</p> <p>展開中なりし第四中隊の象山、福州、温州各警戒小隊及び第一中隊の一部を軍令により第六航空情報連隊に転属せしめ且つ桂林、衡陽方面に展開中の第六航空情報連隊の一部を転入す</p> <p>軍令陸甲第二四号（昭二〇、二、八）に依り廣東に於て第四次編成を完結し左の三ヶ中隊を増設す</p> <p>第六中隊（警戒中隊）</p> <p>第七中隊（警戒中隊）</p> <p>第八中隊（情報中隊）</p> <p>軍令陸甲第三五号に依り第五次編成を完結し左の一ヶ中隊を増設す</p>				

0640

昭		
20	20	20
8	8	5
20	19	2
<p style="text-align: center;">第九中隊（放送中隊）</p> <p>第十三飛行師団命令により第二、第四、第七中隊を北支に転進せしめ第二十二航空情報連隊長の指揮下に入らしむると共に朝鮮に展開せる。</p> <p>才九中隊は才五航空軍司令官の指揮下に入らしむ。</p> <p>停戦に伴い才二十三軍命令により才六中隊一ヶ小隊を汕頭支隊長、才一中隊の一部を雷州支隊長、才三中隊の主力を香港総督に夫々転属せしむ。</p> <p>才二十三軍命令により才三航空路部広東保安区、才二三航空通信連隊、南支派遣隊、才五四対空無線隊、才五航測隊、才四氣象聯隊才五中隊、才四固定無線隊の一部は才五航空情報連隊長の指揮下に入らしめ、九月二五日転入す。</p>		

0641

19	19	19
6	5	4
26	14	30
<p>二、行動の概要</p> <p>漢口に於て才一次編成時に於ける展開配置 要図左の如し。</p> <p>連隊本部広東に前進し広東地区防空を強化す。</p> <p>「ト」号作戦開始に伴い監視二ヶ分隊を地上作戦部隊に跟进前進せしむ。</p>		

0642

										昭	
21	20		20	20		20	20	20	19	19	19
4	9		9	7		5	4	1	10	10	9
9	3		12	1		2			20	15	3
<p>「ト」号作戦才二期開始に伴い才二中隊主力を地上作戦部隊と共に西江沿岸に前 進展開せしむ。</p> <p>円竹統制通信所を開設し西江沿岸の情報網を強化す。</p> <p>一八年度才一次特別幹部候補生七九名の教育を開始し昭和二〇年二月末終了す。</p> <p>電波警戒機要員二〇〇名の教育を開始し三月二〇日終了す。</p> <p>才一次特別幹部候補生並に電波警戒機要員の教育終了に伴い遂次海正面及び奥漢 地区情報網を強化す。</p> <p>六号演習により才二、才四、才七中隊北支に転進す。依つて柳州、桂林地区を放 棄し情報網の重点を海正面に指向す。</p> <p>本然の任務遂行の傍ら「竜」陣地構築作業を実施す。</p> <p>終戦に伴い中国空軍才六地区司令部に対し一切の物資を移譲し一〇月一日概ね完 了す。</p> <p>中国空軍協力作業を開始し二二年三月二四日該協力を終了す。</p> <p>復員のため新埠に向い広東出発</p>											

0643

	21	21	21	21	21	20
	6	4	4	4	4	9
	4	18	11	10	9	3
<p>部隊長</p> <p>中佐 進藤 錦一郎</p>	浦賀上陸復員	浦賀港着上陸待機	復員のため新埠にて船舶「ナンススワイトマン号」(Y O 八六号)に乘船、内地に向い出発。	新埠到着	復員のため新埠に向い広東出発	中国空軍協力作業を開始し、三月二十四日該協力を終了す。 了す。

0644

昭	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	昭	年 月 日	才六航空情報連隊  (隼才九八七七部隊)  略  略  歴									
13	1615	1515	1514	1414	1414	1414	1414	1414	13											
12	7	7	7	9	4	4	12	12	9			7	6	5	5	3	12			
5	21	20	20	5	4	29	28	10	9	2	1	1	30	11	10	16	5	略	歴	摘 要
北支北京において第一五航空情報隊臨時編成完結 同日より北京附近の警備並びに教育訓練に従事第一次航空進攻作戦に参加 北京附近の警備並びに教育訓練に従事す 田号作戦準備並びに教育訓練に従事す 路安作戦準備並びに教育訓練に従事す 第二次航空進攻作戦並びに教育訓練に従事す 第三次航空進攻作戦並びに教育訓練に従事す 第四次航空進攻作戦並びに教育訓練に従事す 要池防空並びに警備、教育訓練に従事す 一飛団作命第二六二号により満州移駐のため北京出発 山海關通過																				

0645

	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	
	1818	1817	17	1716	16	1616	16	16	16	
11	7	63	39	9	9	99	9	9	97	7
5	1	3011	1027	30	26	2521	20	15	1425	24
	<p>龍江省斎々哈爾着、各地域に展開す</p> <p>斎々哈爾附近の警備並びに教育訓練に従事す</p> <p>軍令陸甲第二〇号により編成改正着手</p> <p>編成改正完結（航測隊一中隊編成）</p> <p>斎々哈爾附近の警備並びに教育訓練に従事す</p> <p>軍令陸甲第七号により編成改正着手</p> <p>編成改正完結（情報隊一中隊を編成）</p> <p>中支漢口に移駐、南支全域に展開す</p> <p>一八年前期航空作戦に参加</p> <p>より一八年前期航空作戦参加</p> <p>軍令陸甲第九八号により第一五航空情報隊の称号を第六航空情報連隊と改称</p> <p>其人員器材を基幹として本部、二情報中隊、五警戒小隊及び材料廠、一警戒中隊を編成し編成改正完結</p> <p>航測中隊を第五航測隊に編入せしめらる</p>									

0646



至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
2121	2020	2020	2020	20	2020	19	1919 1918
6 1	9	9 8	7 5	5 1	3	2	2 1 8 8 12 2 212
1011	2	2 1	3115	141	15	22	1027 31 25 3128 27 1
内地復員	南京において終戦	南京附近の警備並びに二〇年第三期航空作戦に参加	二〇年第二期航空作戦に参加	二〇年第一期航空作戦に参加	一警戒中隊を第二二航空連隊に編入せしめらる	一警戒中隊、一放送中隊を編成し編成改正完結	軍令陸甲第二四号により編成改正着手
					南京移駐南支全域に展開	編成改正完結（二警戒中隊編成）	軍令陸甲第九三号により編成改正着手
							一八年度航空作戦に参加
							一八年後期航空作戦参加



至自 至自 至自											昭 19	年 月 日	第七航空情報連隊 (第一八四八四部隊)	略 歴	略 歴	摘 要				
7	7	77	77	77	6	6	6	5	4	4										
17	11	1610	148	126	29	10	2	29	28	23										
軍令陸甲第三四号に依り編成下令 静岡県磐田に於て第七航空情報連隊編成完結 南方派遣のため門司港出發 高雄港上陸、同日より台湾火烧島附近の戰鬥参加 高雄港出發 「シンガポール」上陸 「シンガポール」出發 馬來「ポートセツタイム」出發 「スマトラ」島「テロクニボン」上陸 主力は「スマトラ」島「メダン」着 一部東海岸州「ゲバン」着、同地に在りて北部「スマトラ」要地防空作戰に従																				

0649

20								19	
8	8	6	6	11	10	9	9	7	7
25	15	18	17	1	1	26	15	31	25
<p>事</p> <p>昭和一九年四月、九飛行師編第九五号に依り編成改正着手</p> <p>編成完結</p> <p>主力「メダン」出発、同日「タンジュン・プーラ」着、同地に在りて「スマトラ」島北要地防衛勤務</p> <p>「タバトアン」移駐のため「ゲバン」展開部隊「ゲバン」出発</p> <p>一部「メダン」出発</p> <p>「アチエ」洲「コタラジャ」着</p> <p>西海岸洲「タバトアン」着</p> <p>編成替のため「コタラジャ」出発</p> <p>東海岸洲「ゲバン」着</p> <p>終戦</p> <p>一部東海岸洲「リマプーラ」に集結</p> <p>同地に在りて北部「スマトラ」治安警備に従事</p>									

0650

			22				21				20	
	9	9	9	2	2	2	2	2	2	1	9	8
	18	18	5	16	16	15	14	6	4	28	2	30
	復員	佐世保上陸	内地帰還のため「シンガポール」出発	「リババレー」作業隊に入隊	「クルアン」出発、「シンガポール」着	「メンキポール」出発、「クルアン」着	「バトババ」出発、「メンキポール」着	「マレー」半島「バトババ」上陸	移駐のため「ベラワン」出発	移駐のため「リマプール」出発	「リマプール」着	主力集結のため「タンジュン・プーラ」出発

0651

昭 19					年 月 日	略 歴	
12		10		7			
末		上		20			
<p>軍令陸甲第六一号により編成下令 静岡県磐田中部第一二九部隊及び福岡、西部第八〇七四部隊において編成 完結</p> <p>(一部比島「マニラ」において編成)</p> <p>より各船団に逐次乗船門司出発「バシー」海峡及び「サンフェルナンド」 沖において敵潜水艦の魚雷攻撃受け海没(山萩丸他)</p> <p>比島「マニラ」に一部「サンフェルナンド」上陸連隊の指揮下に入り比島 全域に展開す</p> <p>補充人員逐次到着展開完了す</p> <p>各中隊配置状況次の如し</p> <p>本部及び材料廠「マニラ」</p>					<p>才一〇航空情報連隊</p> <p>(威才一八九一六部隊)</p> <p>略歴</p>		
					摘 要		

0652

<p>第一中隊 「タヘバス」 「マウバン」 「サンタマリヤ」 「クラーク」 「マ ニラ」 「ガスビー」</p> <p>第二中隊 「バエテ」 「タヤバス」 「サンタマリヤ」 「シニロアン」 「ル クバン」 「ダゴホイ」 「ネグロス」 「セブ」 「マンダリヨン」</p> <p>第三中隊 「マニラ」 「イボ」 「ポリナオ」 「エチアゲ」 「ピナバガン」</p> <p>第四中隊 「イボ」 「エチアゲ」 「カバナツアン」 「ビコール」</p> <p>第五中隊 「タヤバス」 「シニロアン」 「サンタマリヤ」 「タマバイ」 「クタバラン」 「ルグバン」 「バエテ」</p> <p>第六中隊 「サンフェルナンド」 「エチアゲ」 「カバナツアン」 「ビコ ル」 「ナガ」 「ポリナオ」 「バヨニボン」</p> <p>第七中隊 「クラーク」 「ロベス」 「タヤバス」 「プアミン」 「バドブル ゴス」 「バイテ」 「シエバラ」 「イボ」</p> <p>第八中隊 「サガ」 「ピリ」 「イサグロ」 「ミンダナオ」 「レイテ」 「タクロバン」</p>

0653

			20
		9	2
		2	3
<p>第九中隊「ルクバン」「マニラ」「イボ」等に展開航空警戒並びに警備に従事す 本部及び一部中隊「イボ」に転進す 状況悪化し通信の杜絶と共に一部を除き各展開地高級指揮官の指揮下に入らしめられ地上戦斗に参加す 比島において終戦 終戦に伴い戦斗行動を停止し爾後生存者は所在の地点において武装解除されたる後米軍収容所に入る</p> <p>部隊長 中佐 村上 実</p>			

0654



									年	第一一航空情報連隊 略歴 (羽第一六六六二部隊)	
									月		
									日		
						20			昭 19		
8	8	8	8	6	5	4	10	10			
15	14	12	11	中旬	1			10	4		
<p>昭19年軍令陸甲第九三号により第一航空情報隊及び第二航空情報隊復帰            第一航空情報隊及び第二航空情報隊の人員、資材を基幹とし、第一一航空情報            隊を杏樹において編成す            一ヶ中隊を第一七航空情報隊に転出す            本部、材料廠、第一、第三、第五中隊は牡丹江省温春に移駐す            温春において第六中隊を編成            各中隊の一ヶ小隊を以て第二中隊を編成し南鮮に展開す            第四、第六中隊は哈爾濱移駐のため杏樹出發            連隊本部、材料廠、第一、第三、第五中隊は敦化に転進のため温春出發            第四、第六中隊哈爾濱着            主力敦化、一部哈爾濱及び京城において停戦</p>										略	歴
										摘 要	

0655

					20
		10	10	10	9 8
		3	2	1	中旬 20
	歴代部隊長 少佐 徳田 義雄	博多上陸、復員	釜山出發	浦項出發	主力敦化、一部哈爾濱において武装解除 南鮮展開の第二中隊は浦項に移動

0656

									昭	年 月 日	才一四航空情報連隊  (翔才一六五〇三部隊)	略  略  歴
			19	18			17					
5	4	4	1	1	12	12	10	9				
25	30	25	30	25	25	20	25	8				
第二次編成改正下令									軍令陸甲第七五号により編成下令			略  歴
情報隊を第一四航空情報連隊と改称す									第一六航空情報隊の人員、を基幹として「スマトラ」島「パレンバン」において第一四航空情報隊編成完結			
第一次編成改正完結									軍令陸甲第九九号により編成改正下令			
第二次編成改正完結									第一次編成改正完結			
昭和一九年軍令陸甲第三四号同陸亜機密第一五一号により編成改正下令									第二次編成改正完結			
第二次編成改正下令									第一次編成改正完結			
												摘 要

0657

												至自	
												2019	19
												20	21
2	1	1	1	10	10		9	8	8	7	7	5	
1	30	28	27	31	12		15	15	1419	31	25	30	
連隊主力「ガラン」島上陸												第二次編成改正完結	
連隊主力「バレンバン」出發												第三次編成改正下令	
「バレンバン」着												第三次編成改正完結	
「利」号演習のため「タンジョンカラン」出發													
「テルクベトン」出發、「タンジョンカラン」着													
「メトロ」出發、「テルクベトン」着													
同日「メトロ」着													
連隊主力「バレンバン」出發												停戦のため中部「スマトラ」航空地区部隊長の指揮下に入らしめらる	
												砕作戦に参加	
												「スマトラ」島「バレンバン」に在りて「スマトラ」島防衛反攻激撃々	

0658

22				21								
9	9	8	8	7	7	7	6	6	3	3	2	2
18	5	6	5	22	3	2	28	14	5	3	14	11
佐世保港上陸、復員				作業隊要員内地帰還のため「シンガポール」港出發				復員				大竹上陸
				一部内地帰還のため「スマトラ」島「パレンバン」港出發				復員				主力鹿兒島港上陸
								一部大竹港上陸、復員				連隊主力「カラン」島出發
								作業隊要員「シンガポール」着				作業隊要員「クルアン」検門通過
								作業隊要員「マライ」「バトバハ」着				作業隊要員（第六中隊）「スマトラ」島「バカンバル」港出發

0659



昭 18	18	18	19	19	19	20	20	21	年 月 日	才 八 航 空 情 報 隊  (司才一五三三八部隊)	略 歴	摘 要
5	29	27	2	2	3	28	2	25	略			
11	11	12	2	2	8	3	9	7	略	略	略	略
18	18	18	19	19	19	20	20	21	略	略	略	略

軍令陸甲第九号により編成下令  
静岡県磐田町第一航空情報隊に於て編成完結  
南方派遣の為宇品港出発  
「アンボン」島上陸、濠北撃滅戦参加  
「モロタイ」島「ハルマヘラ」島中間地区仲台に於て「ニューギニア」方面展開要  
員二三名敵潜水艦の攻撃を受け輸送船沈没全員海没す。  
「セレベス」島「マカツサル」に転進第一次濠北作戦に参加す  
「シヤワ」島転進  
「シヤワ」島において終戦  
大竹港上陸復員す

0661

才九航空情報隊 (威才一八四八五部隊)									
略歴									
昭	年	月	日						
19		4	28	静岡県磐田第一航空情報連隊に於て編成完結					
		5	12	磐田出發					
		5	13	門可着					
		5	20	南方軍派遣のため門可港出發					
		5	23	高雄港入港					
		5	25	高雄港出發					
		6	1	比島「マニラ」港入港、第四飛行師団長の隷下に入らしめらる					
		6	10	第四航空軍司令官の指揮下に入らしめらる					
		7	28	第一中隊は「ネグロス」島に展開のため「マニラ」出發 同日「ネグロス」島「バコロド」着同地警備第二中隊は「マニラ」附近 に展開のため「マニラ」に於て諸業務に服す					
摘要									

0662



				20	19
	9	2	2	1	10
	2	6	3	25	10
<p>第二中隊は青木戦隊に直接協力のため「クラーク」飛行場に展開、爾後戦闘勤務に従事</p> <p>米軍の「クラーク」地区へ侵入に伴い、小笠原中佐の率いる集成通信隊の一隊となり「クラーク」山中に転進し糧食及び弾薬の運搬に従事す</p> <p>部隊本部、第二警戒本部中隊は「マニラ」「イボ」に布陣せる河嶋兵団の指揮下に入り</p> <p>「イボ」陣地附近に於て戦闘</p> <p>終戦に伴い戦闘行動を停止し爾後生存者（部隊）は所在の地点に於て武装解除されたのも米軍収容所に入る</p>					

0663

				昭 20	年 月 日	第一七航空情報隊 略 歴
				4		
				5		
	8	8	8			(羽第一六六九大部隊)  昭二〇、四、一、軍令陸甲第二四号により北安省龍鎮において編成着手、龍江 省齊々哈爾において編成完結 爾後部隊本部を齊々哈爾に置き、北滿各地に監視哨を設置して、情報収集の任 務を遂行す 停戦 齊々哈爾収込に展開の監視哨を齊々哈爾に集結(遠隔地に展開の監視は集結し し得ず) 主力齊々哈爾において武装解除
	22	18	15			
部隊長	少佐	村瀬	律夫			
						摘要

0664

							昭 19	年 月 日	第一八航空情報隊 略 歴
							7		
8	12	11	10		9	9			
15	12	26	15		25	18	25	略 歴	
<p>軍令陸甲第九三号に依り臨時編成下令 静岡県磐田町第一航空情報隊に於て編成完結 南方転進のため本部及第一中隊主力、博多出発 (輸送途中乗船爆撃を受け生存者は台湾に逆行、爾後台湾所在部隊に転属せしむ)</p> <p>本部の一部、第二中隊主力博多出発 第三中隊主力博多出発</p> <p>第二中隊、第三中隊「パレンバン」着 本部「パレンバン」に、兵力の大部を「パンカ」島、一部「クチン」「タンバラン」に展開、対空警戒任務に従事 停戦、爾後「パレンバン」に在りて、部隊主力「ラハト」に移駐</p>									
								摘要	

0665

					21	
		9	9	8	7	2
		12	10	25	21	15
少佐 徳重房夫	部長	復員	大竹上陸	部隊主力「パレンバン」出発	一部内地帰還のため「パレンバン」出発	「バンカ」島派遣隊は同地に於て夫々治安警備に任ず 「ラハト」に在りて部隊主力、「バンカ」派遣隊共に「パレンバン」に集結

0666

昭和										年 月 日	第二一〇航空情報隊  (鏑第一九二七六部隊)  略 歴	
20	19					18						17
4	4	4	2	同	2	9	9	8	8			
3	10	2	28	日	3	26	11	30	31	日	略 歴	
第三次、千島派遣のため樺太残置隊の一部樺太出發											摘要	
幌筵島柏原上陸												
小樽出發												
第二次、千島派遣のため樺太残置隊の一部樺太出發												
帯広着												
部隊本部帯広に移駐のため札幌出發												
主力樺太に残置												
部隊本部札幌(月寒得)に移駐す												
幌筵島柏原上陸												
第一次千島派遣のため樺太出發												
樺太大谷において編成完結												

0667

				20
			8 8 5 4	
			23 15 2 11	
			小梅出発 幌筵島柏原上陸 北海道、千島、樺太の各地において停戦 樺太及び千島の各地において武装解除	
		歴代部隊長		
		初代 少佐 久保宮 公		
		二代 少佐 井 対 浩		
		三代 少佐 黒 須 三 郎		

0668

	昭 18	年	
	6	月	
	7	日	
昭和一八、五、一八、軍令陸甲第四八号により臨時編成下令 京城において朝鮮軍防空情報隊編成完結 部隊は左記地点を基点として朝鮮全地域に小隊を派遣し航空情報の収集に 従事す		略	歴
本部	京城		第一監視隊
第一警戒隊	清津		第二監視隊
第二警戒隊	江陵		第三監視隊
第三警戒隊	木浦		第四監視隊
第四警戒隊	群山		第五監視隊
第五警戒隊	仁川		第六監視隊
第六警戒隊	金谷		第七監視隊
			羅津 会寧 羅南 木浦 洪城 海州 江陵
			摘要

才三七航空情報隊

(師才七四四〇部隊)

略歴

0669

至自	至自				20	19
2020	2020					
119	98	8	4	4	4	7
	1517	15	25	20	10	15
<p>部隊長</p> <p>大佐 松山常夫</p>	<p>第七警戒隊 齊州島 第八監視隊 釜山</p> <p>第八警戒隊 釜山 通信、放送中隊 京城</p> <p>軍令陸甲第七二号により朝鮮軍防空情報隊を朝鮮軍航空情報隊と改称</p> <p>軍令陸甲第三四号により朝鮮軍航空情報隊を第三七航空情報隊と改称</p> <p>軍令陸甲第二四号(昭二〇、二、二二)により一部人員増加のため編成</p> <p>改正着手</p> <p>編成改正完結</p> <p>朝鮮において停戦</p> <p>北鮮(三八度線以北)における各部隊は所在の地点においてソ連軍により武装解除を受く</p> <p>南鮮(三八度線以南)における各部隊はこの間に概ね復員</p>					

0670



								年 月 日	
19		18		17		16			昭 15
8	1	7	7	4	9	3	12		
10		14		1		1		昭 16	
<p>第二航空軍特種情報部 (羽第八三二四部隊)</p> <p>略 歴</p> <p>新 京 において航空兵団特種情報部編成完結            牡丹江、輪樹屯に出張所設置            新京孟家屯に出張所設置。            第二航空特種情報部と改称す            佳木斯出張所を開設し情報網を強化す            軍令陸甲第六六号により編成改正            旅順出張所を開設し対支情報の収集開始            左の如く出張所移駐す            佳木斯、牡丹江出張所 海林へ            齊々哈爾出張所 榆樹屯へ</p>								略 歴	
								摘 要	

0671

					20
7	7	6		5	3
30	1	1		31	1
第二次演習準備	第一次演習終了一部は直ちに榆樹屯に前進	開始	「ソ」軍動行究明のため海林にて一ヶ月榆樹屯にて一ヶ月の予定をもつて演習	編成改正 第一航空特種無線隊の人員を編入せしめ編成改正完結 展開状況左の如し 一、本部指揮班及第一、二、三、標定中隊、材料廠、教育隊は新京 一、第三情報中隊 榆樹屯 一、第四情報中隊 孟家屯 一、第五情報中隊 旅順 一、第一、二情報中隊 牡丹江 演習間第一標定中隊は海林、第二標定中隊は榆樹屯に展開す	編成改正下令

0672

								20
8	8	8	8	8				8
20	22		16	15				9
<p>い号態勢下令</p> <p>爾後「ソ」軍航空部隊の情報収集を中止し「ソ」軍機甲部隊の情報を収集す、展開状況左の如し</p> <p>一、海 林 第一、二情報中隊、第一標定中隊</p> <p>一、「チチハル」 第三情報中隊、第二標定中隊</p> <p>一、旅 順 第五情報中隊、第三標定中隊</p> <p>一、新 京 本部、指揮班、第四情報中隊</p> <p>教育隊、材料廠</p> <p>停戦</p> <p>本部及指揮班の一部、教育隊、材料廠、第四情報中隊は大連に向い前進、第五情報中隊及第三標定中隊（一部除く）は旅順より周水子飛行場に集結す</p> <p>停戦に伴い左の如く「ソ」軍により武装解除されたる後入「ソ」す</p> <p>周水子において本部（指揮班）、教育隊、材料廠第四、五情報中隊</p> <p>「チチハル」において第三情報中隊、第二標定中隊</p>								

0673

		20
		8 8
		20 22
	部 隊 長 中 佐 浅 海 隆 一	一面波において第二情報中隊、第一標定中隊 孟家屯において孟家屯出張所

0674

昭 17	年	第五航空軍特種情報部  (隼第九八九九部隊)  略 歴
6	月	
10	日	
19 2	18 2	略 歴
10	頃	摘要
<p>支那派遣軍總司令部の機関としてありたる特種情報部は第三飛行師団がその隷下に入らしめられると共に同部の一部をもつて第三飛行師団特種情報班を南京において編成</p> <p>總司令部特種情報部と連繫しつつ在支航空作戰並びに地上作戰に協力す</p> <p>情報網充実のため本部を漢口に固定すると共に広東支部を強化し更に常德作戰等に協力のため一部を岳州附近の鉄箇石飛行場に派遣す</p> <p>軍令陸甲第<del>本</del>本号により第三飛行師団特種情報班の人員を基幹として第五航空軍特種情報部を漢口において編成完結</p> <p>配置の状況左の如し</p> <p>本部 漢口(中支)</p> <p>支部 広東(南支)</p>		

0675

	20		20
	8	10	9 5
	15	20	2 19
<p>初代 少佐 窪田英夫</p> <p>部 隊長</p>	<p>支那各地に展開しありたる各支部は停戦とともに本部との隷属をはなれ所在高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を共にす</p>	<p>支部分動</p> <p>内地復員</p>	<p>本部は第五航軍司令部と共に朝鮮京城に転進す</p> <p>京城において終戦</p> <p>し本部は南京に移駐す</p> <p>本部は第五航軍司令部と共に朝鮮京城に転進す</p> <p>支那各地に展開しありたる各支部は停戦とともに本部との隷属をはなれ所在高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を共にす</p>

0676

